

事業の基礎情報

実施主体	(株)流山ツーリズムデザイン
事業実施地域	千葉県流山市
共創の類型	官民共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり
共創パートナー	(株)流山ツーリズムデザイン（観光地域づくり法人DMO）、流山市流山本町・利根運河ツーリズム推進課 BRJ(株)（電動キックボードインフラ提供）(株)ジェイコム千葉（地域メディア）
運行形態	電動キックボード
運行主体	BRJ(株)

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

流山市は流山おおたかの森エリアを中心に人口増加が著しいものの、歴史的資源を持つ流山本町や自然資源が豊富な利根運河への利便性悪いため、地域の経済循環が不足していることが地域課題である。

本事業では、新しい電動キックボードの運営・管理手法を導入するなど、持続可能な新しいモビリティマネジメントを導入することにより、市内の交通利便性の向上を確保し、観光における域内経済循環を高めることを目的とする。



（事業の概要）

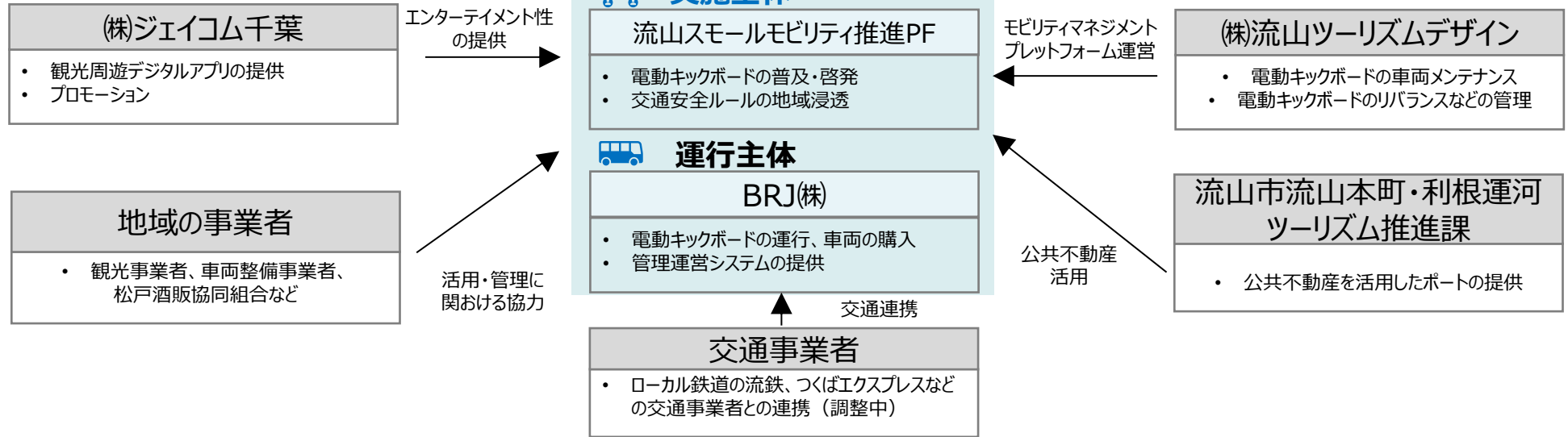
(株)流山ツーリズムデザインが、新しいサービス、経済合理性のある運営手法を検討、流山市と連携し大型のポートを確保、BRJ(株)は新車両を導入、(株)ジェイコム千葉と連携し観光デジタルアプリとキックボードアプリとの連動した回遊性の確保、電動キックボードのマイヘルメット保有の推進など交通安全対策の推進するなど、地域で2次交通を運営する持続可能なモビリティマネジメントを実現する。

域内回遊性の隔絶を克服する持続可能なモビリティマネジメントの実証

応募様式A

流山スモールモビリティ推進プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

(株)流山ツーリズムデザインが電動キックボードの運営主体となり、流山市から駐輪場として活用可能な遊休公共不動産の提供、BRJ(株)から車両・デジタル運営アプリの提供を受け、流山独自ブランドの新たな電動キックボード事業を立ち上げる。

ローカル鉄道の2次交通の課題解消に向け流鉄(株)とコンテンツ開発を行い、(株)ジェイコム千葉と連携して観光周遊アプリの提供や、交通安全プロモーションを行い、市内への電動キックボード事業の普及啓発を図る。また、観光利用の促進を図るため、ローカル鉄道である流鉄(株)や、都心と直結するつくばエクスプレスと連携し、駅からの2次交通手段として活用促進を図る。

(実証事業により見込まれる効果)

ナガラヤマ電動キックボードアプリ利用者数 1,000人 電動キックボードのポート開発 100台
流山本町流入増加者数 1,000人 (KDDIビックデータから補足) 利根運河流入者数 1,000人
観光消費額の増加 流入者数×平均観光消費額 R5年度 (4,000円)

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

6月	新しいサービス 運営手法の検討	都市部で主流の1分単価ではなく10時間500円など、駅から自宅に持ち帰ることを前提とした場合の採算性が取れる価格設定の検討。
7月	駅近隣大型ポート確保	流山おおたかの森駅、流山駅、運河駅周辺にて各20台程度充電と駐車可能なポートの確保に向け交渉を実施。
8月	回遊性向上の 観光企画	回遊するための仕掛けとなる観光周遊アプリの開発と、地域メディアを活用したプロモーションを実施
9月	安全講習の開催	ショッピングモール、駅周辺で電動キックボードの体験会と安全講習会を実施 10月～3月迄 3回程度
10月	車両の導入と実証	「ナガレイイカモ」など住民に浸透している地域ブランドを車体にラッピングしたプライベートブランドのキックボードサービスの導入
2月	データ分析・振り返り	観光周遊アプリと電動キックボードアプリから人流統計データを収集し分析してシンポジウムで公表

(補助事業実施後の予定)

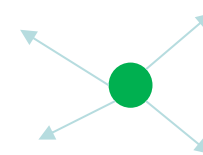
ポートを散発的に分散させる大都市圏モデルを郊外に転用すると収益性の確保は難しいことから、駅周辺に大型ポートを設け、“自宅に持ち帰る”、“長時間の観光利用を行う”ことを前提とした料金設定とすることで、利用単価の向上と管理の効率性を兼ね備えたモビリティマネジメントを実現する。
地方都市の個別事情に応じたサービスを提供することで、利用単価を向上させ収益性を確保できる持続的なモビリティマネジメントを実証する。

大都市モデル
多ポート、多回数



郊外では、管理コスト多
回数少

郊外モデル
少ポート、高単価



持続的
モビリティマネジメント